

Newsletter for JADR

I. 健康長寿への貢献からノーベル賞へ

JADR 会長 高田 隆

(広島大学医歯薬保健学研究院口腔顎顔面病理病態学)

本年6月22日から25日にソウルで開催された第94回 IADR 総会学術大会も盛況のうちに終了しました。今回の IADR 大会では、第3回 IADR Asia-Pacific Region の総会・学術大会ならびに第64回 JADR 総会・学術大会が併催されました。学術大会には多くの日本人研究者や学生さらには関連業界の方々が多参加され、JADR が学術的にも各種委員会や scientific group の管理運営にも IADR および IADR-APR の主要メンバーとしての役割を十二分に果たすことができました。会員並びに関係者の皆様のご尽力に感謝申し上げます。また、株式会社ジーシー様にご後援いただいている Japan night には、歴代 IADR 会長をはじめとする約350名の皆様にご参加いただき、大変盛況な会となりました。参加された方々から、Japan night が一番良いレセプションであるとの言葉をいただき、ここでも JADR のプレゼンスを示すことができました。株式会社ジーシー様のご高配によるものと改めて御礼申し上げます。

次回の第95回 IADR 総会・学術大会はサンフランシスコで開催されます。会期が3月22日から4日間ということで、会員の皆様におかれましてはが年度末のご予定が立て込んでおられる時期と拝察しますが、万障お繰り合わせの上ご参加いただければと存じます。

さて、今年度はソウルで JADR 総会・学術大会をすでに開催しましたので、国内での総会・学術大会の開催はありません。

そこで、JADR の国内での学術活動の重要性を考慮し、日本歯科医学会との合同で学術シンポジウムを12月17日に日本歯科医師会館で開催させていただくことにさせていただきました。開催にあたりましては、日本歯科医学会会長の住友雅人先生や担当役員の井上孝先生に大変お世話になりました。この場を借りてお礼申し上げます。日本歯科医学会の先生方と相談の上、シンポジウムのタイトルを「歯学研究における重要な発見とその可能性 — 健康長寿への貢献からノーベル賞へ —」としております。このシンポジウムのタイトルには、我が国の歯科医学・医療分野からノーベル賞受賞者を輩出したいという強いメッセージが込められています。皆様、特に若い研究者をお誘い合わせの上、多くの皆様にご参加いただければ幸いです。

先日、知人から Massive Transformative Purpose (MTP) という言葉を教えてもらいました。この言葉は、2015年に全米でビジネス部門のベストセラーになった“エクスポネンシャル・オーガナイゼーション (指数関数的飛躍型組織)”の中に出てくるキーワードで、日本語では「野心的な変革目標」と訳されます。MTP はビジネス用語で今後の企業の発展に不可欠な要素として提唱されていますが、他の分野にも応用可能な概念だと思います。歯科医学・医療から、MTP を設定し世界共通の課題を解決する革新的な分野を開拓することによって歯科医学・医療分野からノーベル賞受賞者が出ることを切に願っています。

II. 第94回IADR 学術大会・第3回APR 学術大会併催、 第64回JADR 学術大会報告

1. IADR Distinguished Scientist Award を受賞して

山崎 和久

(新潟大学大学院医歯学総合研究科口腔保健学分野)

この度、2016年度 IADR Distinguished Scientist Award の Basic Research in Periodontal Disease Award を受賞いたしました。

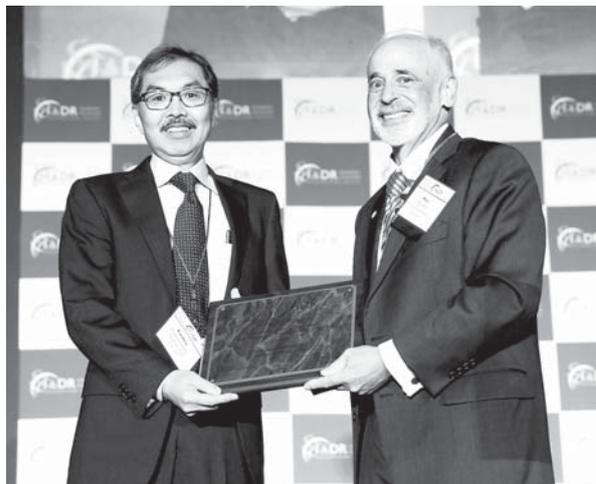
歴代の受賞者は J. Waerhaug や歯周病学の教科書にその名を残す I. Glickman をはじめ Jan Lindhe, Roy Page, Sigmund Socransky, Robert Genco など歯周病学の進歩に多大な貢献してきた素晴らしい研究者がおられます。日本人としてはこれまでに岡田 宏先生 (大阪大学名誉教授), 村山洋一先生 (岡山大学名誉教授), 中山浩次先生 (長崎大学教授), そして直近では 2013 年に受賞された村上伸也先生 (大阪大学教授) に次いで 5 番目の受賞となります。

過去の受賞者は皆世界的に著名な研究者であり、候補者の一人にノミネートされただけでも名誉なことですが、その方たちと同じ賞をいただいたということは身に余る光栄であるとともに、今後の研究活動に対して改めて身の引き締まる思いです。これもひとえにこれまで指導していただいた故野原廣美先生 (新潟大学名誉教授), 故原 耕二先生 (新潟大学名誉教授), 吉江弘正先生 (新潟大学教授), そして留学時に大変お世話になった Gregory Seymour オーストラリア, クイーンズランド大学名誉教授 (1997 年受賞) をはじめとして、これまで一緒に研究活動をしてきた多くの仲間のおかげだと思っています。とりわけ Seymour 先生は研究者、臨床家、そして何よりも人間として尊敬できる素晴らしい先生で、その後の私の人生に大きな影響を与えてくれました。この留学がなかったら今の自分はないと思っています。

留学から帰国した 1988 年から歯肉炎組織と歯周炎組織における T 細胞の性状の違い、抗原認識にかかわる分子の解析などを継続して行ってきました。その過程で免疫制御に重要な分子として現在最も精力的に研究が進んでいる IL-17 を産生する T 細胞 (Th17) や免疫抑制的に働く制御性 T 細胞 (Treg) の動態を歯周炎組織で初めて報告することもできました。また、歯周炎組織における T 細胞の抗原特異性の研究から *P. gingivalis* のある種の抗原に応答する T 細胞が動脈硬化症関連の抗原も認識することを見出しました。当時、歯周病と全身のさまざまな疾患との関連が目ざされ、研究が活発になってきた時期であり、これを契機に歯周病と動脈硬化性疾患の関連について本格的に研究をスタートさせることとなりました。その後動物モデルを用いて歯周病が全身に及ぼす影響のメカニズムについて研究を進め、新たに歯周病原細菌の腸内環境

に及ぼす影響を明らかにしました。こうした一連の研究が評価され、受賞に至ったものと思っています。

これまで、患者さんの病変部の病態解析を行い、それらの所見をもとに背景にあるメカニズムを *in vitro* や動物モデルを使って明らかにしようとしてきました。私の研究の基盤やヒントは臨床にあります。研究成果を臨床に還元することが大きな目標です。現在、歯周病の全身への影響を腸内細菌叢と腸管免疫の観点から研究していますが、これをさらに進めてメカニズムの詳細を明らかにするとともに、その研究成果を基盤にして新たな治療・予防法の開発につなげていけるよう今後も精進して行きたいと考えています。



Marc Heft IADR 会長より受賞

2. IADR/AADR William j. Gies Award in the Clinical Research category を受賞して

家森 正志

(市立長浜病院 歯科・歯科口腔外科)

京都大学大学院医学研究科感覚運動系外科学講座口腔外科学分野に勤務していたときに指導していた浅井啓太先生の学位論文で、2015年に J Dent Res 掲載された論文、Tooth Loss and Atherosclerosis: The Nagahama Study (94: 52S-58S, 2015) が、2016年の IADR/AADR William j. Gies Awards の臨床研究部門の受賞論文に選出されました。今回、Seoulでの IADR/APR Opening Ceremonies & Awards Programにおいて、ご協力いただいた多くの先生方を代表して同賞を受賞する栄誉に浴することになりました。本来は、筆頭著者の浅井啓太先生と責任著者の私がともに参加する予定でしたが、浅井先生は大学

での多忙な業務のためにあえなく参加を断念せざるをえなくなり、私ひとりで授賞式に参加してきました。COEX Convention & Exhibition Center での Opening Ceremony はとても盛大で、多くの会員の先生方の前で IADR President の Marc Heft から受賞プラークをいただきました。

このたび、受賞の対象となった論文は、ながはま 0 次予防コホート事業の主な活動である長浜市民一人を対象とした「ながはま 0 次健診」の結果から得られた研究成果の一つです。この「ながはま 0 次健診」は、2007 年から京都大学大学院医学研究科と長浜市、長浜市民が産官学民連携で進めています。京都大学大学院医学研究科の多くの研究グループから研究の成果が発表されています。私たちの研究グループでは初回の一人の調査結果から、喪失歯数が動脈硬化の程度と関連することを明らかにしました。さらに関連する因子を調節し詳細に解析したところ、この関係に性差があり男性においてより強い相関関係がありました。歯の健康を守ることで、主な死因の一つである循環器疾患を予防できる可能性があります。そのほか私たちの研究グループは、健診者の一人の咀嚼能力を測定するとともに、食べる速さについてアンケート調査を行い、十分にかめない人あるいは食べる速度が速い人は、それぞれ糖尿病のリスクが高いことが明らかにしました（文献）。咀嚼能力を維持することやしっかり咀嚼する習慣が、糖尿病を予防する可能性があります。また、口腔に関連する研究として呼吸器内科のグループが、口呼吸が実際に喘息を引き起こしやすいことを報告し、膠原病内科のグループは、歯周病が関節リウマチと関係することを明らかにしています。

「ながはま 0 次健診」はコホート研究であり、2017 年に 3 回目の調査が始まる予定です。私たちの研究グループでは、口腔の健康が全身疾患の発症や予後に如何に関連するのか検討していきたいと考えています。また、次世代シーケンサーを用いたゲノム解析を行っており、多くの疾患の遺伝要因と環境要因との関係が明らかになると期待しています。

最後になりましたが、この論文の研究には、長浜市民はも



表彰式(左より Jack Ferracane AADR 会長, 筆者, Marc Heft IADR 会長)

ちろんのこと、京都大学大学院医学研究科口腔外科学教室の別所和久教授をはじめ、医局員先生方、そして京都大学医学研究科の多くの先生方や湖北歯科医師会、湖北医師会の先生方、市民団体の 0 次クラブの方々など多くの人々が協力により成り立っています。この場を借りてすべての人々に心より感謝申し上げます。

文献) Yamazaki T, et al: Mastication and Risk for Diabetes in a Japanese Population: A Cross-Sectional Study. Plos One 8: e64113, 2013.

3. IADR Lion Award for New Investigators を受賞して

河井 智美
(鶴見大学歯学部口腔微生物学講座)

この度は、「The antibacterial constituents produced by *Lactobacillus fermentum* against *Porphyromonas gingivalis*」に関しての IADR Lion Award for New Investigators を受賞させていただきましたことを大変光栄に感じております。

本研究では歯周病の主要な病原菌である *P. gingivalis* に対して抑制効果を示す、プロバイオティクスに注目し、その抗菌物質についての分析を行いました。近年、歯周病は全身の疾患と深く関わっていることが明らかになり、歯周病の治療、予防の重要性が示されています。プロバイオティクスは、腸内細菌叢を正常化することにより、生体に有益に働く生きた細菌と定義されており、この対極にアンチバイオティクスとして抗生物質があります。抗生物質には薬剤耐性菌やアレルギーなどの問題があり、私たちの体に弊害をもたらしています。そこで代替医療としてプロバイオティクスの有用性に注目が集まっています。これをう蝕や歯周病原菌抑制の目的で臨床研究が行われています。臨床で歯周病に用いられるプロバイオティクス菌として、*Lactobacillus salivarius*, *Lactobacillus reuteri*, *Streptococcus salivarius*, *Enterococcus faecium* などがありますが、しかし、これらの口腔内細菌叢に与える影響や産生する抗菌物質や抗菌メカニズムに関する基礎的な研究報告は少ないのが現状です。そこで、*Lactobacillus* 53 株をスクリーニングし、*P. gingivalis* に対して強い抗菌性を示した、*L. fermentum* ALAL020 について分離、精製を行い抗菌物質の構造解析を行いました。LC-MS にて質量分析を行ったところ、本物質に含まれる主成分は、分子量 226.131 の物質であり、予想される組成式は $C_{11}H_{18}O_3N_2$ と推測されました。今後は、本物質について口腔内細菌に対する影響や歯周病予防に応用するために、歯周病原菌に対する本物質の抗菌メカニズムについて検討する予定です。

今回の学会では、多くの先生方から貴重なご意見を頂くことができ、大変励みとなりました。今後も、より一層の研鑽を重ねていきたいと考えております。日頃から暖かくかつ真

摯にご指導くださる鶴見大学前田伸子教授、ならびにこの度の研究をサポートしてくださった先生方にこの場を借りて、心より感謝申し上げます。



IADR Periodontal Research Group の先生方と
(左から Dr. Jian Q. Jerry Feng, 筆者, Dr. Andreas Stavropoulos)

4. Geriatric Oral Research

高松 直也

(昭和大学歯学部高齢者歯科学講座)

94th IADR General Session & Exhibition は2016年6月21日から25日の5日間にわたり、韓国のソウルで開催されました。ソウルといえば、2000年代最初である2002年FIFAワールドカップソウル大会が日韓同時開催されたことがまだ記憶に新しいと思います。

ソウルの人口は韓国の経済発展に伴って急増を続けましたが、地価の高騰や少子化・高齢化、雇用の悪化から、近隣の仁川市や京畿道を含めたソウル都市圏そのものも既に人口減少に転じており、ソウル都市圏には韓国国民のおよそ半分が在住し、日本以上に一極集中的な傾向が強く、街は活気に溢れていました。さらに2016年、アメリカのシンクタンクが公表したビジネス・人材・文化・政治などを対象とした総合的な世界都市ランキングにおいて世界11位、アジア5位の都市と評価された地です。学会会場であるCOEX MALLはソウルを代表する大型ショッピング空間であり、フライトでの疲れも忘れるくらい圧巻でした。学会開催中は雨も多く、蒸し暑い日が続きました。しかし、学会は初日から活気にあふれる研究発表と旺盛なディスカッションによって、その気候をも忘れるくらいでした。学会初日のWelcome receptionでは、早速国際的なコミュニケーションやスピーチで盛り上がりを見せていました。

Geriatric Oral Research のセッションでは、ポスター発表11題の発表がありました。今回この分野からの日本の発表は5題で約半数を占め、どれも日本の超高齢社会にふさわしい内容の発表であり、海外の先生とのディスカッションが活発に

行われていたように感じました。また、日本以外に、アメリカ、フランス、イタリア、ニュージーランドなど様々な国からの報告がされていました。基礎的な研究発表よりも、実際の症例に関する研究が多く、今後の臨床に生かせそうな演題もあったため、大変有意義な時間を過ごすことができました。加えて、私の母校である日本大学歯学部附属歯科病院の先生方ともお話しする機会があり、恩師と学生の時とは違う充実した意見交換もでき、研究に対する意欲が高まりました。

今回、国際的な場での発表という貴重な機会を頂き、自身の研究成果を発表する責任とともに、英語でのコミュニケーション能力不足を痛感致しました。特に、英語での質疑応答は、私にとって非常に不安が大きくとても緊張するものでした。多くの先生から御質問や御意見を頂くことができ、大変有り難く思いましたが、全てを理解できなかったり自分の考えを上手く表現できなかったりするもどかしさを感じることもありました。今後、研究を進めながら、英語の力も向上させていきたいと思っています。

来年のサンフランシスコでの発表を目指して研究に励んでいる後輩に、今回の学会で得たこと、経験したことを伝えていきたいと思っています。

5. Implantology Research

西内 智紀

(昭和大学歯学部高齢者歯科学講座)

94th IADR General Session & Exhibition は2016年6月21日から25日の5日間にわたり、大韓民国ソウル特別市江南区のCOEXで開催されました。日本からするとお隣の韓国ですが、2002年の日韓合同開催でのワールドカップ、最近では2014年アジア競技大会が記憶に残っているかと思います。また、昨年は16th ICP 2015もソウルで開催され、当科からも3名がポスター発表を行いました。今回の学会会場であるCOEXは、1979年に建設され、韓国を代表する大型のコンベンションセンターです。2000年にアジア欧州会合(ASEM)第三回首脳会合の会場になったことで、世界的にも知名度が高まっています。また、最近ではCOEXモールや現代デパートとも直結したことで、韓国の有名な観光スポットでもあります。学会会場周囲には、歴史的な建造物が多く存在し、朝鮮王陵(チョソンワンヌン)、三陵公園(サンヌンコンウォン)といった世界遺産もみられました。会場内はとても広く、レセプションも様々な言語に対応でき、あちらこちらで英語が飛び交い、グローバルな雰囲気を醸し出していました。私が発表したポスター会場は、中央に企業展示があり、それを挟むように両翼にポスター展示が設置されていました。

Implantology Research のセッションでは、口頭発表28題、ポスター発表68題、計96演題の発表がありました。今回この分野からの日本の発表は全体のおよそ1割にあたる9演題

で、すべてがポスター発表でした。私が参加したポスターセッション (Implantology Research on Implant Materials) では、地元韓国をはじめアルゼンチン、ドイツ、トルコなど様々な国の発表がみられました。

今回、私は初めてポスターの発表をさせて頂き、さらに国際学会にも初めて参加しました。当医局内でも、発表前に予演会を行い、他の先生達から質問も頂くのですが、海外の先生方の考え方や発想力は予想をしていない質問も多かったです。また、研究意欲が素晴らしく矢継ぎ早に質問が来るので対応に追われてしまうこともありました。しかしながら、予想していた質問に対する見解は、拙い英語力ですが、理解してもらえる面もありました。英語を学び、喋れるようになるということは、国際的な学会での意見の交換や、海外の先生の講演等を学べるチャンスも増えると思われるので、これからも大事にして行きたいと考えさせられました。今後も機会があれば国際学会で発表を行いたいと思います。

9月にドイツで開催される 40th Annual Conference of The European Prosthodontic Association (EPA) での発表を目指して研究に励んでいる後輩に、今回の学会で得たこと、経験したことを伝えていければと思います。

6. 第 94 回 IADR 学術大会に参加して

黒川 千尋

(昭和大学歯学部歯科保存学講座美容歯科学部門)

2016年6月22日からの4日間、第94回 IADR 学術大会が韓国の首都ソウルにて開催されました。私にとって初めて、国際学会での発表となりました。日本からのアクセスが良いため、日本人参加者の姿を多く見かけたように感じました。

梅雨時期にも関わらず、私たちが滞在した学会会期中は天候に恵まれ、ソウルの街並みや古宮も訪れることができました。ソウルは周囲を山に囲まれていて、特に都市の中心部は「内四山」と呼ばれる山々によって四方が囲まれており、都市部から山々が見られるところは独特でした。ソウルには5つの古宮がありますが、その中でも中心に位置する昌徳宮(チャンドクン)は王宮庭園秘苑がうつくしい所でした。また食文化も充実しており、韓国料理はどれも栄養満点で美味でした。

学会会場は COEX convention center でした。滞在場所の明洞からのアクセスも良く地下鉄の乗り換えもスムーズに行うことができました。また、今回の IADR のポスター演題数は全部で 2054 題、Dental Materials に限ると、口頭発表が 18 題、ポスター発表が 49 題でした。その演題数の多さ、会場の広さや賑わいに圧倒されました。さらには、企業ブースも国内の学会とは比べ物にならないほど多くが参加されていました。私は、4日目の Dental Materials 内の Qualitative and Quantitative Analysis of Free-radicals Generated during Bleaching というタイト

ルでポスター発表させて頂きました。過酸化水素濃度および照射時間を変化させ、電子スピン共鳴装置 (ESR) とルミノメーターを用いて測定し、過酸化水素から発生するラジカルの検討を発表してきました。セッション時間は 75 分間でしたが、その間日本人の先生だけでなく海外の先生方から質問を受け、激励を頂くこともありました。貴重な経験となりましたが同時に、海外の先生方とより深いセッションを行うためにも、さらに英語力を高めねばならないとも思いました。

また、今まで私が参加した学会は一つの専門分野に特化した発表のため、今回のような他分野の発表は新鮮で良い刺激を受け大変勉強になりました。今回、学会中は専門分野以外の講演も積極的に参加するようにしました。経験や知識不足により、全てを十分理解できているとは言えませんでした。刺激になり、また気付かされることも多く、非常に勉強になりました。それを今後、日々の診療や研究に生かしていくことが課題だと考えています。またこの刺激的な場に参加できるような研究に励みたいと思います。

最後になりましたが、このような機会を与えてくださった昭和大学歯学部歯科保存学講座美容歯科学部門 真鍋厚史教授、ならびに研究発表のため、ご指導頂きました先生方に感謝申し上げます。

7. 第 94 回 IADR 総会・学術大会に参加して

小川 弘美

(昭和大学歯科保存学講座美容歯科)

2016年6月22日から25日にわたり、韓国のソウルで開催されました 94th IADR General Session & Exhibition に参加しましたのでご報告させていただきます。開催地であるソウルを訪れたのは初めてでしたが、日本とほぼ変わらない気候で大変すごしやすい4日間でした。

学会会場の COEX Convention & Exhibition Center はソウルの中心地である明洞から電車で40分ほどの場所にある、映画館・水族館・博物館といったアミューズメントスペースなどもあった大型複合施設でした。

今回の IADR の演題数は Oral Presentation 660 題、Poster Presentation 1394 題の計 2054 題でした。

私は研究テーマである Dental Materials のセッションを中心に参加しました。本セッションは Oral Presentation 18 題、Poster Presentation 90 題、計 108 題の演題があり、大変充実した研究発表内容となっていました。Oral Presentation/Poster Presentation に関わらず活発なディスカッションが行われており、研究者の熱意が伝わり非常に感銘を受けました。

学会4日目には Seq#: 250 Dental Materials 7: Color and Appearance (Esthetics) で同講座の黒川千尋先生の Poster Presentation に同席させていただきました。同じセッションでは他に日本からの発表は1演題で、他はトルコ、ブラジル、

韓国, スペイン, サウジアラビアなど様々な国からの報告がされていました。Poster Presentation は 75 分間という短い時間でしたが, 英語での質疑応答の難しさを実感し, 英語やコミュニケーション能力の重要性を再認識しました。また, 各国・各分野の研究者とのディスカッションを通じて研究内容をさらに洗練させることができる大変貴重な場であると感じました。

IADR に参加したことで, 新たな視点や考え方に触れることができ,モチベーションがあがり, 次回大会では自ら発表できるように研究に励みたいと思いました。

今回, 私は初めて IADR に参加させて頂きましたが, 普段日本で参加している学会は専門分野についての発表のため, 他分野のポスターもたくさん並ぶ今回の学会は, とても新鮮で勉強になりました。

最後になりましたが, このような機会を与えてくださった真鍋厚史教授をはじめとする昭和大学歯科保存学講座美容歯科部門の先生方, 関係者の皆様は心より感謝申し上げます。

簡単ではありますが, 今回の IADR の参加報告とさせていただきます。

III. 理事会, 評議員会および総会報告

JADR 会長 高田 隆

(広島大学医歯薬保健学研究院口腔顎顔面病理病態学)

2016 年度は, 理事会が 4 回 (2 月 19 日, 5 月 23 日, 9 月 2 日, 11-12 月予定) 開催される予定です。

評議員会・総会は, 第 64 回 JADR 学術大会 (第 94 回 IADR 学術大会と併催) 時の 6 月 23 日に, 会場である CoEx Convention & Exhibition Center において開催されました。冒頭で評議員会成立のための定足数を満たしていることが確認され, また, 安彦 善裕先生 (北海道医療大学) ならびに石川邦夫先生 (九州大学) が議事録署名人として選出されました。

以下評議員会および総会において決定された 2017 年度の事業計画などについて報告いたします。

1) 2017 年度事業計画

以下の 2017 年度事業計画が提案され承認されました。

- 理事会 : 4 回開催 (2, 5, 8, 12 月)
- 評議員会・総会 : 第 65 回評議員会・総会開催日時 (11 月)
- 学術大会 : 第 65 回学術大会 (11 月)
11 月 18 日～ 19 日に昭和大学にて開催
- 各種委員会 : JADR/GC 学術奨励賞選考委員会
- Newsletter : 年 2 回発行 (2 月, 9 月発行予定)
- Mail News : 年 4 回程度を予定
- 日本歯科医学学会理事会出席 (陪席)
- KADR 学術大会へ講師派遣

IADR 2017 年度 Council Meeting へ役員を派遣

APR 2017 年度 Board Meeting へ役員を派遣

2018 年度 IADR Hatton Award 候補者選考

IADR Vice President 候補者を IADR 本部へ推薦

IADR 各種 Committee 委員へ JADR 会員を推薦

IADR 本部へ JADR Annual Report を提出

2) 2015 年度会計決算 (案) および 2017 年度会計予算 (案) について

会計決算は, 高野吉郎監事, 村上伸也監事による監査承認後, 第 1 回理事会承認を経て, 評議員会および総会において満場一致で承認された。2017 年度会計予算案は, 第 2 回理事会で承認を経て, 評議員会および総会にて満場一致で承認されました。

3) 次期会長選出について

正会員による投票の結果, 以下の次期会長 (2019 年 1 月 1 日～ 2020 年 12 月 31 日) が選出されました。

今里 聡 (大阪大学大学院歯学研究科歯科理工学教室)

4) 次期会長および役員 (理事・監事) について

役員選出規程に従い, 下記の JADR 次期役員 (案) が上程され, 第 2 回理事会の議をへて, 評議員会および総会で満場一致で承認されました。任期はいずれも 2017 年 1 月 1 日から 2018 年 12 月 31 日まで。

役員名簿 (2017-2018)

会長	山崎 和久	新潟大学大学院医歯学総合研究科口腔保健学分野
副会長	今里 聡	大阪大学大学院歯学研究科歯科理工学教室
前会長	高田 隆	広島大学歯学部口腔病理学教室
理事	森山 啓司	東京医科歯科大学大学院顎顔面矯正学分野
理事	上條 竜太郎	昭和大学歯学部口腔生化学講座
理事	中村 誠司	九州大学大学院歯学研究科口腔顎顔面外科学分野
理事	石原 和幸	東京歯科大学微生物学教室
理事	江草 宏	東北大学大学院歯学研究科分子・再生歯科補綴学分野
理事	小方 頼昌	日大大学松戸歯学部歯周病学講座
理事	林 美加子	大阪大学大学院歯学研究科歯科保存学教室
理事	本田 雅規	愛知学院大学歯学部口腔解剖学講座
理事	葭原 明弘	新潟大学大学院医歯学総合研究科口腔保健学分野
監事	村上 伸也	大阪大学歯学部口腔治療学講座
監事	高橋 信博	東北大学大学院歯学研究科口腔生生物学講座口腔生化学分野

5) 終身会員推挙について

会則に従って、以下の会員（敬称略）が理事会より終身会員として推薦され、評議員会および総会において承認されました。

終身会員 落合 邦康
川浪 雅光
岸本 悦央
桑田 文幸
小松 正志
須田 英明
永目 誠吾
前田 伸子

IV. 会計報告

会計理事 今里 聡

2015年度決算報告ならびに2017年度予算案の承認につきましては、2016年度JADR総会（2016年6月23日開催）におきまして、承認されましたので以下にてご報告申し上げます。

国際歯科研究学会日本部会 2015年度決算 (2015年1月1日～2015年12月31日)

一 般 会 計

【収 入】

	2015年度予算	2015年度決算	執行率	備 考
年会費	8,710,000	8,731,519	100.2%	
正会員	7,470,000	7,340,716	98.3%	*
学生会員	200,000	230,803	115.4%	**
部会員	240,000	220,000	91.7%	***
賛助会員	800,000	940,000	117.5%	**** 9社 47口
日本歯科医学会委託費	640,000	640,000	100.0%	(旧) 日本歯科医学会補助金
IADR 大会分配金	500,000	712,707	142.5%	2014 IADR Cape Town 大会分配金 (\$6,091×117.01円)
奨励賞補助金	300,000	300,000	100.0%	(株) GC より 30万円入金
JADR Joseph Lister Award 補助金	200,000	245,720	122.9%	ジョンソン&ジョンソン (株) より US\$2,000 入金
雑収入	1,000	7,825	782.5%	預金利息
小 計	10,351,000	10,637,771	102.8%	
前年度繰越金	11,612,094	11,612,094	100.0%	
合 計	21,963,094	22,249,865	101.3%	

*2016年 ¥597,754 (98名), 2015年 ¥6,742,962 (957名)

**2016年 ¥20,780 (17名), 2015年 ¥210,023 (177名)

***2015年 ¥190,000 (38名), 2014年 ¥25,000 (5名), 2013年まで ¥5,000 (1名)

****2015年 ¥800,000 (9社), 2014年 ¥140,000 (2社)

【支 出】

	2015年度予算	2015年度決算	執行率	備 考
通 信 費	450,000	417,924	92.9%	日常通信費, 会費請求書発送費, Newsletter 発送費等
Newsletter 印刷費	550,000	515,376	93.7%	1号~2号印刷費
総会案内等印刷費	100,000	92,880	92.9%	
理事会・監査費	2,150,000	1,446,701	67.3%	第1回~第4回理事会開催費、会計監査費
事 務 費	800,000	713,947	89.2%	コピー代, 封筒代, 消耗品代他
プラーク作製費	151,200	151,200	100.0%	
JADR 大会補助金	2,700,000	2,700,000	100.0%	第 63 回学術大会補助金
特別講演謝金	50,000	50,000	100.0%	
国際渉外費	600,000	597,407	99.6%	IADR 評議会旅費, IADR 来賓接遇費他
次期会長選挙費	-	-	-	
JADR/GC 学術奨励賞副賞	300,000	322,900	107.6%	第 63 回学術大会 (5 名分) プラーク作製費含む
JADR/Joseph Lister Award 副賞	200,000	200,000	100.0%	第 63 回学術大会 (4 名分)
JADR Travel Award 副賞	350,000	280,000	80.0%	第 63 回学術大会 (4 名分)
雑 費 (予備費)	50,000	12,744	25.5%	
事務委託費	3,420,000	3,477,913	101.7%	
小 計	11,871,200	10,978,992	92.5%	
次年度繰越金	10,091,894	11,270,873	111.7%	
合 計	21,963,094	22,249,865	101.3%	

財 産 目 録 (単位:円)

<一般会計>

(資産の部) 普通預金	三菱東京 UFJ 銀行江坂支店	10,049,118
普通預金	住友信託銀行千里中央支店	109,099
郵便振替	日本郵政公社	1,125,000
資 産 合 計		11,283,217
(負債の部) 未払費用	2015 年度 12 月事務通信費	7,344
前受会費	2016 年度以降入金分年会費	5,000
負 債 合 計		12,344

国際歯科研究学会日本部会 2015 年度決算 (2015年1月1日～2015年12月31日)

特別会計

『将来事業計画基金』

【収 入】

	2015 年度決算	2015 年度決算	執行率
受取利息	1,000	1,389	138.9%
小 計	1,000	1,389	138.9%
前期繰越金	26,967,333	26,967,333	100.0%
合 計	26,968,333	26,968,722	100.0%

【支 出】

	2015 年度決算	2015 年度決算	執行率
一般会計に繰入支出	1,000	1,389	138.9%
小 計	1,000	1,389	138.9%
次期繰越金	26,967,333	26,967,333	100.0%
合 計	26,968,333	26,968,722	100.0%

財産目録 (単位:円)

<特別会計> 将来事業計画基金

(資産の部) 普通預金	三井住友銀行	0
定期預金	三菱東京 UFJ 銀行江坂支店	10,000,000
定期預金	住友信託銀行千里中央支店	10,000,000
定期預金	三井住友銀行江坂支店	6,967,333
資 産 合 計		26,967,333



国際歯科研究学会日本部会 2017 年度予算 (2017年1月1日～2017年12月31日)

<一般会計>

【収 入】

	2017 年度予算	2016 年度予算	2015 年決算	備 考 (2017 年度予算)
年 会 費	7,210,900	8,043,600	8,731,519	
正 会 員	5,934,000	6,576,000	7,340,716	
学生会員	196,900	267,600	230,803	
Affiliate 会員	100,000	200,000	-	
部 会 員	180,000	200,000	220,000	
賛助会員	800,000	800,000	940,000	9社40口
日本歯科医学会委託費	640,000	640,000	640,000	(旧) 日本歯科医学会補助金
IADR 大会分配金	1,140,040	1,964,400	712,707	Seoul 大会(400名参加:10,364 \$ × 110円として)(2015 Boston 大会:637名:16,450 \$を参考)
JADR/GC 学術奨励賞補助金	300,000	300,000	300,000	(株) GC より
JADR Joseph Lister Award 補助金	200,000	200,000	245,720	ジョンソン&ジョンソン (株) より
雑 収 入	1,000	1,000	7,825	
小 計	9,491,940	11,149,000	10,637,771	
前年度繰越金	11,270,873	11,270,873	11,612,094	
合 計	20,762,813	22,419,873	22,249,865	

【支 出】

	2017年度予算	2016年度予算	2015年度決算	備 考 (2017年度予算)
通 信 費	400,000	450,000	417,924	会費請求 (2回)・Newsletter (2回) 日常事務通信費
Newsletter 印刷費	500,000	550,000	515,376	
総会案内等印刷・郵送費	100,000	0	92,880	
理事会・監査費	2,050,000	2,500,000	1,446,701	理事会 (3回) ¥1,350,000, 監査 ¥100,000, Hatton 二次審査会 ¥600,000
事 務 費	800,000	800,000	713,947	諸印刷費, 封筒代, 関連会議役員出席旅費等
プラーク作製費	75,000	37,800	151,200	IADR, KADR 各特別講演者 (2名分)
JADR 大会補助金	2,700,000	200,000	2,700,000	第 65 回総会
特別講演謝金	50,000	0	50,000	特別講演者 (1名分)
国際渉外費	600,000	600,000	597,407	IADR Council Meeting 旅費他
次期会長選挙費	-	500,000	-	
JADR/GC 学術奨励賞副賞	300,000	300,000	322,900	第 65 回総会 (5名分), 副賞
JADR/Joseph Lister Award 副賞	200,000	200,000	200,000	第 65 回総会 (4名分)
JADR Travel Award 副賞	280,000	0	280,000	第 65 回総会 (4名分)
雑 費 (予備費)	50,000	50,000	12,744	
事務委託費	3,200,000	3,420,000	3,477,913	会員, 会計, 庶務, Hatton 審査, 奨励賞審査, 各種 Award 審査, HP 管理, ML 配信
小 計	11,305,000	9,607,800	10,978,992	
次年度繰越金	9,457,813	12,812,073	11,270,873	
合 計	20,762,813	22,419,873	22,249,865	

国際歯科学研究学会日本部会 2017 年度予算
(2017年1月1日～2017年12月31日)

＜特別会計＞『将来事業計画基金』

【収 入】

	2017年度予算	2016年度予算	2015年度決算
受取利息	1,389	1,000	1,389
小 計	1,389	1,000	1,389
前期繰越金	26,967,333	26,967,333	26,967,333
合 計	26,968,722	26,968,333	26,968,722

【支 出】

	2017年度予算	2016年度予算	2015年度決算
一般会計に繰入支出	1,389	1,000	1,389
小 計	1,389	1,000	1,389
次期繰越金	26,967,333	26,967,333	26,967,333
合 計	26,968,722	26,968,333	26,968,722

V. 日本歯科医学会共催シンポジウム
のご案内

JADR 会長 高田 隆

(広島大学医歯薬保健学研究院口腔顎顔面病理病態学)

会員の皆様には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。
さて、日本歯科医学会共催シンポジウムを下記の要領で開催
いたしますので、多数ご参加下さいますようご案内申し上げます。

主 題：「歯学研究における重要な発見とその可能性
－健康長寿への貢献からノーベル賞へ－」
日 時：平成 28 年 12 月 17 日 (土曜日) 午後 1 時 00 分
～ 3 時 45 分
会 場：歯科医師会館大会議室
〒 102-0073 東京都千代田区九段北 4 丁目 1 番 20 号
主 催：日本歯科医学会・国際歯科学研究学会日本部会 (JADR)
詳細は、JADR ホームページ (<http://www.jads.jp/2016/0914/index.html>) にてお知らせいたします。

【プログラム (案)】

13:00 開会

開会の辞

13:00 ~ 13:30 主催者より

住友 雅人 (日本歯科医学会会長)

高田 隆 (国際歯科研究学会日本部会 (JADR) 会長)

13:30 ~ 14:00 講演 1

講師: 竹居 孝二 (岡山大学大学院医歯薬学総合研究科教授)

演題: 分子研究から疾患の病態解明・臨床応用への展開:

ダイナミンのマルチスケール解析

座長: 井上 孝 (日本歯科医学会総務理事/東京歯科大学教授)

14:00 ~ 14:30 講演 2

講師: 池邊 一典 (大阪大学大学院歯学研究科准教授)

演題: 歯と口腔機能が高齢者の非健康状態に及ぼす影響:

文理融合型コホート研究より

座長: 上條 竜太郎 (国際歯科研究学会日本部会 (JADR) 理事/昭和大学歯学部教授)

14:30 ~ 15:00 講演 3

講師: 山崎 和久 (新潟大学大学院医歯学総合研究科教授)

演題: 歯周病と全身疾患を結ぶ新たなメカニズム

座長: 石原 和幸 (国際歯科研究学会日本部会 (JADR) 理事/東京歯科大学教授)

15:00 ~ 15:15 休憩

15:15 ~ 15:45 総合討論

講演 1 ~ 3 の講師及び座長が登壇

15:45 閉会

閉会の辞

参加費: 無料

参加登録方法: 事前登録制: 定員 200 名 (先着順)

登録受付期間: 2016 年 11 月 1 日 (火) より開始

参加申込書に必要事項をご記入の上、E-mail または FAX にてお申込みください。

問合せ先: 日本歯科医学会事務局 E-mail: jda-jads@jda.or.jp

VI. 第 65 回国際歯科研究学会日本部会 (JADR) 総会・学術大会開催のご案内

大会長 上條 竜太郎

(昭和大学歯学部口腔生化学講座)

会 期: 2017 年 11 月 18 日 (土) ~ 11 月 19 日 (日)

会 場: 昭和大学

〒142-8555 東京都品川区旗の台 1-5-8

TEL: 03-3784-8163

大 会 長: 上條竜太郎

(昭和大学歯学部口腔生化学講座)

準備委員長: 宮本 洋一

(昭和大学歯学部口腔生化学講座)

内 容: 特別講演、シンポジウム、ランチョンシンポ

ジウム、ポスターセッション、展示、その他

VII. 第 95 回 IADR 総会・学術大会 (San Francisco, Calif., USA) のご案内

会 期: 2017 年 3 月 22 日 (水) ~ 25 日 (土)

会 場: Moscone Convention Center

747 Howard Street San Francisco, CA 94103

演題登録締切: 2016 年 10 月 13 日 (木)

事前参加登録締切 (発表者): 2017 年 1 月 17 日 (火)

事前参加登録締切 (一般): 2017 年 2 月 1 日 (水)

CONTENTS

I. 健康長寿への貢献からノーベル賞へ	1	I. Aiming for Nobel prize by contribution to health and longevity Prof. Takashi Takata: JADR President	1
II. 第94回 IADR 学術大会・第3回 APR 学術大会併催、 第64回 JADR 学術大会報告	2	II. Report of the 94rd IADR General Session/the 3rd APR General Session/ the 64th JADR General Session	2
1. IADR Distinguished Scientist Award を受賞して	2	1. IADR Distinguished Scientist Award Prof. Kazuhisa Yamazaki : Niigata Univ.	2
2. IADR/AADR William j. Gies Award in the Clinical Research category を受賞して	2	2. IADR/AADR William j. Gies Award in the Clinical Research category Dr. Masashi Yamori: Nagahama City Hospital	2
3. IADR Lion Award for New Investigators を受賞して	3	3. IADR Lion Award for New Investigators Dr. Tomomi Kawai: Tsurumi Univ.	3
4. Geriatric Oral Research	4	4. Geriatric Oral Research Dr. Naoya Takamatsu: Showa Univ.	4
5. Implantology Research	4	5. Implantology Research Dr. Tomoki Nishiuchi: Showa Univ.	4
6. 第94回 IADR 学術大会に参加して	5	6. Join in the 94th General Session of JADR Dr. Chihiro Kurokawa: Showa Univ.	5
7. 第94回 IADR 総会・学術大会に参加して	5	7. Join in the 94th General Session of JADR Dr. Hiromi Ogawa: Showa Univ.	5
III. 理事会, 評議員会および総会報告	6	III. Report of the Board Meeting, Annual Business Meeting and the Councilor Meeting Prof. Takashi Takata: JADR President	6
IV. 会計報告	7	IV. Budget 2015, 2017 Prof. Satoshi Imazato : JADR Treasurer	7
V. 日本歯科医学会共催シンポジウムのご案内	10	V. Announcement of the JADS and JADR Symposium 2016 Prof. Takashi Takata: JADR President	10
VI. 第65回国際歯科研究学会日本部会 (JADR) 総会・ 学術大会開催のご案内	11	VI. Announcement of the 65th JADR Annual Meeting Prof. Ryutaro Kamijo: Chair of 65th JADR Annual Meeting	11
VII. 第95回 IADR 総会・学術大会 (San Francisco, Calif., USA) のご案内	11	VII. Announcement of the 95th General Session of IADR in San Francisco, Calif., U.S.A. Prof. Takashi Takata: JADR President	11

●編集後記●

本年6月にソウルで第94回 IADR 学術大会が開催されました。JADR 会員にもおなじみで、前会長の安孫子宣光先生と旧知の間柄であるソウル大学 Byung-Moo Min 先生の八面六臂の大活躍により成功裏に閉会いたしました。開催地による参加者の多寡は Council meeting においてもたびたび議論されているところですが、多くの方が一度ならず訪れたことがあるせいも、日本からの参加者数も若干少なめだったようです。本ニュースターでは参加された皆様から熱気あふれる学術大会の様子を寄稿いただきました。本大会でも多数の会員が様々な賞を受賞し、JADR 会員のアクティビティの高さを示す事ができたのではないかと思います。残念ながら IADR Hatton Award 本選では日本からの入賞はなりませんでしたが、今回の参加で得た様々なことを今後の研究活動に生かして、一層飛躍されることを期待いたします。

発行 国際歯科研究学会日本部会 (JADR) <http://jadr.umin.jp/>

連絡先: 〒612-8082 京都市伏見区両替町 2-348-302

アカデミック・スクエア (株) 内 TEL: 075-468-8772 FAX: 075-468-8773

JADR 副会長 山崎和久 (新潟大学大学院医歯学総合研究科口腔保健学分野)

連絡先: 〒951-8514 新潟市中央区学校町通二番町 5274 FAX: 025-227-0744

2016年9月30日 発行